

平成28年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

一人ひとりが自分らしい生き方で社会に貢献できるよう、豊かな人間性と確かな学力が育つ学校をめざす。

- 1 建学の精神「報恩感謝」を大切に、教育理念「人をつくる」ことに基づく教育を実践することにより、人間的な成長を実現し人格の形成をめざす。
- 2 生活・学習の両面において、きめ細かい指導を行い、自立にむけて必要とされる基盤となる能力や態度を育成する。
- 3 一人ひとりが持つ可能性を開花させるため、学校行事や部活動への積極的参加を促し、豊かな人間力を育成する。

2 中期的目標

【1】建学の精神に基づく教育の実践を行い、私学としての独自性を発揮する。

(1) 私学の独自性

- ア. 建学の精神「報恩感謝」・教育理念「人をつくる」ことを教職員がよく理解し、それに基づいて教育を行う。
 - イ. 入学式・卒業式・全体集会などの取り組みを通じて、建学の精神や教育理念について生徒の理解を深める。
 - ウ. 教育方針「個性の尊重」「実行から学べ」「明朗と自主」「礼儀と品性」に基づき、学校行事も含めあらゆる教育活動を通して、人格形成を図る。
- ※教員及び生徒の評価アンケートにおける「建学の精神の理解」（平成27年度 4.3）は目標値に達している。これを平成30年度まで維持する。

(2) 生徒のニーズに対応したコース制

- ア. 生徒の多様なニーズに対応し、英数・英数発展・6年一貫の3つのコース制を設けて教育活動を行う。
 - イ. 英数コースは、勉強はもとより部活動もしっかり取り組めるコース。心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図る。
 - ウ. 英数発展コースは、応用的な内容まで掘り下げた授業を展開し、何事も深く追求したいというニーズに応える。
 - エ. 6年一貫コースは、自分の夢・目標を実現させる力を備え、これからの社会で活躍できる人材を育成する。
- ※生徒評価アンケートにおける「コース満足度」（平成27年度 4.1）を毎年少しずつ上げ、平成30年度には4.2にする。

(3) 進路指導

- ア. 生徒が、より良い進路選択ができるよう、進路情報を提供するための進路ガイダンスを行う。
 - イ. 個々の生徒に応じた希望・目標を実現させるよう、進路相談や進路支援を行う。
- ※生徒評価アンケートにおける「進路面接等の満足度」（平成27年度 4.1）を毎年少しずつ上げ、平成30年度には4.2にする。

【2】学習面において、きめ細かい指導を行い確かな学力を育成するとともに、人権を尊重する学校づくりを行う。

(1) 教科指導

- ア. 各教科は基礎・応用に細かな指導を行うため年間を通じた教育計画を立て、シラバスに沿って指導する。
 - イ. 授業に創意工夫を行い、分かりやすい授業を行う。
 - ウ. 学力の向上をめざすため、早朝テスト・放課後学習・休暇中の講習を実施する。
- ※生徒・保護者の評価アンケートにおける「学力向上の意欲」（平成27年度 生徒3.6 保護者3.8）を平成30年度にはどちらも4.0以上にする。

(2) 人権教育

- 生徒一人ひとりが互いの個性を尊重し合う集団づくりを行う。
- ア. 人権感覚を持ち相手の身になって行動できるよう、日々の学校生活すべての活動を通して相手を思いやることができるよう指導する。
 - イ. いじめ等を未然に防ぐため各学年、日直面談を行い、学期ごとに「仲間づくりアンケート」を実施するなど生徒との接点を密にする努力を行う。
 - ウ. 学年毎にテーマを決め人権教育を行う。
 - エ. 12月の人権週間には人権講演を実施する。
- ※生徒・保護者の評価アンケートにおける「学校のいじめの対応満足度」（平成27年度 生徒3.6 保護者3.7）を平成30年度にはどちらも4.0以上にする。

【3】基本的な生活習慣の確立を行うとともに、安全で安心な学校づくりと生徒への支援を行う。また、学校行事や部活動を通じて豊かな人格形成を行う。

(1) 生活指導

- ア. 基本的な生活習慣と規律ある態度を養うように指導を行い、集団生活における社会性を身につけさせる。
 - イ. 挨拶運動・シェアシート運動等を実施し、基本的なマナーの実践に努める。
- ※生徒・保護者の評価アンケートにおける「教員の規則を守らせる指導」（平成27年度 生徒4.2 保護者4.0）は平成30年度にはどちらも4.2以上にする。

(2) 危機管理と情報公開

- 生徒の安全・安心を優先して危機管理に当たり、私学の有する公の性質と学校教育に果たす役割を考慮して情報を公開する。
- ア. 教職員は生徒の安全が何よりも大切であるという認識を日頃からもち、危機管理マニュアルを作成し、安全・安心な学校をめざす。
 - イ. 学校ホームページ等で可能な範囲の教育活動や情報の公開を行う。
- ※教員自己評価アンケートにおける「学校安全対策」（平成27年度 4.0）であり、平成30年度まで維持する。
※保護者評価アンケートにおける「学校の情報公開」（平成27年度 保護者3.9）であり、創意工夫を重ねて平成30年度には4.2とする。

(3) 学校行事や部活動

- ア. 社会性や協調性の育成のため、クラブ活動を奨励する。
 - イ. 情操面を豊かに育てるため、宿泊研修、校外学習、耐寒オリエンテーリングなど多彩な行事を充実させる。
- ※クラブ活動については4.2、行事が人間的に成長させているが4.3と高評価である。次年度もこれを維持する。

(4) 課題を抱えている生徒への支援

- ア. 生徒が抱えている問題に対して、一人ひとりを大切にしたいきめ細かい相談・指導を行う。
 - イ. 保護者、ICP（臨床心理研究所）と連携し、生徒の問題解決に支援を行う。
- ※生徒評価アンケートにおける「個人面談等の満足度」（平成27年度 3.8）を毎年少しずつ上げ、平成30年度には4.0を超える。

【4】保護者・同窓会・後援会との連携と社会貢献

- ア. 保護者と協力しPTA活動を活発にするとともに、保護者・同窓会・後援会との連携し、文化祭・体育会などの生徒会活動を支援する。
 - イ. 復興支援やボランティア活動等で地域に協力する。
- ※保護者評価アンケートにおける「PTA活動の満足度」（平成27年度 3.8）であり、平成30年度には4.0にする。
※生徒評価アンケートにおける「生徒会活動の満足度」（平成27年度 4.1）であり、平成30年度まで維持する。

【自己評価アンケートの結果と分析・学校協議会からの意見】

自己評価アンケートの結果と分析〔平成28年度〕平成28年12月実施	学校協議会からの意見
<p>評価項目：教育活動全般及び学校に対する全体的評価を行う 評価方法：各項目について、5段階評価で行う 5：大変そう思う 4：どちらかといえば思う 3：普通 2：あまり思わない 1：全く思わない</p> <p>○全体評価 ・「入学してよかったか」の設問に対し、生徒・保護者の評価が毎年4.4前後であり、高評価を得ている。これからも良い評価を目指す。</p>	<p>○学校経営計画について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・諸式への生徒の取り組みから、一人ひとりが前向きに学校生活を送れていると感じる。 ・人権教育や芸術鑑賞など多様な取り組みを通じて「人をつくる」という教育理念に基づいていると思う。 ・課題を持つ生徒たちへの対応についてもよく取り組んでもらえている。 ・実際に役員などになると、学校教育や活動の内容がよくわかり、素晴らしいと理解できる。

<p>○学習指導等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学力のつく学習」の更なる実践を目指しました。シラバスに沿っての指導、授業に創意工夫、早朝テスト・放課後学習など実施したのだが、生徒の学力向上への意欲が目標値の4.0を下回っているのが課題である。 <p>○生徒指導等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「基本的生活習慣」の再確認と育成を行い、教員の自己評価は4.5と高い。また、生徒・保護者の評価も昨年同様高評価である。 ・「いじめの対応」については、それぞれの事象が背景・性格等一つ一つのケースが異なるため、教員の対応が試行錯誤の繰り返しになっている。教員自身頑張っているのに自己評価は4.1と高いが、生徒・保護者から見た評価は4.0を下回っているのは、対応に満足度が足りないからである。今後、教員の対応研修を重ねる努力を行う。 ・「クラブ活動と多彩な行事」は「実行から学べ」の教育方針のもと、体験を通して学んだ知識を使いこなせる能力を身につけるために力を注いでいる。人間力の育成に重要な行事やクラブ活動及び人間関係の項目は、いずれも高評価である。 <p>○学校運営</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校運営や教育内容については、教員による自己評価は概ね4.0以上で高評価であり、学校経営計画に沿って教育に専念している。 ・生徒指導・支援に関する評価では、教員の自己評価は高く、努力もしていると思う。しかし「いじめの対応」については、生徒・保護者の満足度は4.0を下回っている。これは、一人ひとりの事象や背景・性格などが異なるため同様の指導が困難なため起こりうる現象と考えられる。教員は研鑽を重ねてより良い指導ができるようにする。 ・教員研修・資質向上に関して、校内研修については人権教育・生徒理解など計画的に実施しているが、外部研修や自己研鑽に参加した教員が他の教員に伝えて情報を共有することが上手くできていないのが現状である。校務で忙しい中ではあるが、外部研修の発表の時間を取る。 <p>【分析】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校評価の生徒全体の評価が3.99、保護者全体の評価が4.24、ほぼ80%以上の方に高評価をつけて頂いている。また、教員の自己評価も4.2でそれぞれ努力をしていると考えられます。しかし、その中でも「授業への意欲的な取り組み」「いじめを未然に防ぐ取り組み」の評価が他に比べて低い。来年度の教育の質を高めるためには、評価の低い項目の改善に取り組む。 <p>学校目標</p> <p>中学生が多少の問題行動を起こすのは当然として受け止めなければならないが、1・2学期の生徒指導は事後処理ばかりに追われて多忙となり、学校として問題行動を未然に防ぐためにはどうすれば良いかということが出来ない状態であった。偏差値や成績が良い、スポーツが上手、発表が上手い、素晴らしい作品をつくるなどたくさんの才能をもった生徒がいますが、それよりも大切なのは周囲を見て行動できる心のやさしい、思いやりのある美しい心を持った生徒である。そうすれば問題行動は簡単には起こらないと考えます。そういう心豊かな生徒を育てるには、どうすれば良いか試行錯誤してゆかなければならないのが課題です。このことは全職員が同じ方向にベクトルをむけて取り組んでいきたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習面において、講義型授業にとられず、体験型の取り組み（アクティブラーニング）を実践できていると思う。 <p>○ 生徒・保護者による学校評価アンケート結果に対する外部評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「入学して良かったか」という設問が毎年高評価であることが、中学校として良いと考えられる。 ・学力向上への取り組みは、子供によって受け止め方はさまざまだと思う。保護者は参観ぐらいなのでわかりにくいですが、より一層の教員の工夫も望まれるのではないかな。 ・「いじめ」に関して日直面談は有意義であると思うが、内容をより充実させる努力をお願いしたい。 ・挨拶運動では、挨拶はよくしてくれていると思う。シェア・ザ・シート運動については、もう少しキャンペーンを充実させるべきである。 ・校内の安全対策については良いのではないかな、備蓄・ヘルメット等も充実している。 ・学校の情報伝達は、学校にあまり来ない保護者にとっては良い情報源になっているが、HPの定期的に更新が必要だと思われ、FBの浸透にも努力が必要である。 ・クラブ活動や宿泊研修・校外学習などの多彩な行事は生徒を成長させている。 <p>○ 教員による自己評価集計結果報告に対する外部評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体的に評価が高いのは教員が前向きに教育活動に取り組んでいる結果だと思う。 ・教員に時間的余裕のない様子がうかがえる。時間にゆとりを持てる方法の模索が必要である。 ・教員の休養や心の充実も必要である。それがまた良好な教育活動となると思われる。 <p>○ 結果</p> <p>全体的に評価アンケート結果については概ね肯定的な意見が多く、現在の中学校教育体制についても、ほぼ満足頂いている。</p>
---	--

3 本年度の取組内容及び自己評価
平成28年度

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 建学の精神に基づく教育の実践と私学としての独自性	(1) 私学の独自性	ア. 職員研修などを通じて、建学の精神・教育理念などを理解・実践する。 イ. 入学式・卒業式・全体集会などを通じて、建学の精神・教育理念について生徒に話をし、理解を深める。 ウ. 教育方針「個性の尊重」「実行から学べ」「明朗と自主」「礼儀と品性」に沿って、学校行事も含めあらゆる教育活動を通して、人格形成を図る。	ア. 私学であるため教員による建学の精神及び教育理念の理解及び実践が4.3である。 イ. 諸式を通じて校長講話の中で建学の精神や教育理念等の内容をわかりやすく説明している。(平成27年度3.8) ウ. 生徒指導部の月間目標に教育方針の内容を取り入れ、生徒に啓発を行った。	ア. 建学の精神及び教育理念の理解及び実践が目標値に達しているが、昨年より0.1ポイント上昇したが、これを維持したい。(◎) イ. 生徒の教育理念等の内容理解が低い昨年より0.1ポイント上昇した。目標値4.0以上を目指し、啓発を行う。(△) ウ. 教員の教育方針の理解は高評価であるが、生徒の理解が追いついていない。研修を重ね、生徒の理解を促すよう努力する。(△)
	(2) 生徒のニーズに対応したコース制	ア. 英数コースは、勉強はもとより部活動もしっかり取り組めるコース。心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図る。 イ. 英数発展コースは、夏期講習や3年の土曜日午後の授業で応用的な内容まで掘り下げた授業を展開し、何事も深く追求したいというニーズに応える。 ウ. 6年一貫コースは、総合的な学習の一貫である「自分プロジェクト」で自分の夢・目標を実現させる力を備え、これからの社会で活躍できる人材を育成する。	それぞれのコースの特徴を理解し、コースの取組に満足しているかの設問に対し、 ア. (平成27年度 生徒4.1 保護者4.1) イ. (平成27年度 生徒4.3 保護者4.2) ウ. (平成27年度 生徒4.0 保護者4.0) 全コースの平均 平成27年度 4.1である。	ア. 英数コースの満足度は、ほぼ昨年同様であった。高評価であるが目標値にあと0.1ポイント上げれるよう努力する。(○) イ. 英数発展コースは、生徒・保護者とも満足度は目標値を大きく上回っているため、これを維持したい。(◎) ウ. 6年一貫コースの保護者の満足度は高いが、生徒の評価が低い。これからの社会で活躍できる人材を目標に更なる努力が必要である。(○)
	(3) 進路指導	ア. 生徒が、より良い進路選択ができるよう、進路情報を提供するため、3年時2回の進路ガイダンスを行う。 イ. 個々の生徒に応じた目標を実現させるよう、3年の1学期より希望調査をとり、進路相談や進路支援を行う。	ア. 生徒の将来を見据え、進路情報の提供や進路ガイダンス(平成27年度4.1)を行う。 イ. 個々の生徒に応じた目標を実現させるよう、進路相談や進路支援を行なっている 目標値はクリアしているが、4.2以上を目指す。	ア. 進路情報の提供について、昨年より0.1ポイント低下したが高評価を維持している。今後、より丁寧な進路指導を実現したい。(○) イ. 個々の生徒に応じた進路相談により目標値に達している。(◎)

<p>2 学習面において、きめ細かい指導を行い確かな学力を育成するとともに、人権を尊重する学校づくり</p>	<p>(1) 教科指導</p>	<p>ア. 各教科は基礎・応用を徹底的に行うため、年間を通じた教育計画を立て、シラバスに沿って指導する。</p> <p>イ. 授業に創意工夫を行い、分かりやすい授業を行う。</p> <p>ウ. 学力の向上をめざすため、早朝テスト・放課後学習・休暇中の講習を実施する。</p>	<p>ア. 教員によるシラバスに沿った指導の目標を4.3にする。(平成27年度4.2)</p> <p>イ. 教員による授業に創意工夫を行い、分かりやすい授業の展開の目標値を4.5にし、(平成27年度4.3)生徒・保護者による授業は分かりやすいか。(平成27年度 生徒3.9 保護者3.8)との開きが大きい、生徒保護者の目標値を4.2以上に設定する。</p> <p>ウ. 教員による生徒の学力向上・学習の遅れている生徒への支援を個々の生徒の実態に合わせて行っている。(平成27年度4.3)生徒・保護者による学校の学力向上への努力の数値がほぼ一致しているが(平成27年度 生徒4.0 保護者3.9)それぞれ4.3以上を目標としたい。</p> <p>生徒・保護者による生徒の学力向上への意欲が低く(平成27年度 生徒3.6 保護者3.8)4.0を目標とする。</p>	<p>ア. 教員によるシラバスに沿った指導については昨年と同ポイントであった。目標値に達するよう努力を重ねたい。(○)</p> <p>イ. 分かりやすい授業の展開について、教員評価・生徒評価・保護者評価すべて昨年と同ポイントであった。生徒の授業理解を優先的にポイントの上昇を図る。(△)</p> <p>ウ. 教員評価はすべて4.0以上の高評価であるが、生徒の学力向上への意欲が低いのは、昨年同様大きな課題である。目標値にむけて研修など通じ、更なる努力を行う。(△)</p>
	<p>(2) 人権教育</p>	<p>ア. 人権感覚を持ち相手の身になって行動できるよう、日々の学校生活すべての活動を通して人権教育を行う。</p> <p>イ. いじめ等を防ぐため各学年、日直面談を行い、学期ごとに「仲間づくりアンケート」を実施し、人権意識を育てる。</p> <p>ウ. 障がい者と外国人差別について(1年)、身分差別と平和学習(2年)、総まとめと進路について(3年)と学年毎にテーマを決め人権教育を行う。</p> <p>エ. 12月の人権週間には中学校行事として、人権講演を実施する。</p>	<p>ア. 教員は周囲の人を尊重し、よりよい人間関係を築いていく態度を養う教育を実践しているが(平成27年度4.3)昨年より0.3ポイント下降している。</p> <p>イ. 生徒・保護者による教員の「いじめ」の対応は適切か(平成27年度 生徒3.6 保護者3.7)と低い、目標は4.0以上と設定する。</p> <p>ウ. 教員は人権に係わる様々な問題に関心を持ち、人権意識を高める教育を実践している。(平成27年度4.2)</p> <p>エ. 人権講演や道徳的な行事については(平成27年度 生徒4.3 保護者3.9)保護者の満足度が低いので改善する。</p>	<p>ア. 教員は日々の学校生活すべての活動を通して人権教育を実践している。ポイントは伸びていないが高評価である。今後高評価を維持する。(○)</p> <p>イ. 「いじめ」の対応についての生徒・保護者の評価は低い、教員の更なる努力が必要である。(△)</p> <p>ウ. 本校における教員の人権意識は総合的に高いと感じられる。今後も引き続き、これを維持する。(◎)</p> <p>エ. 人権講演や道徳的な行事について、生徒評価は昨年同様非常に高い。保護者の理解も得られるよう努力する。(◎)</p>

<p>3</p> <p>基本的な生活習慣の確立を行うとともに、安全で安心な学校づくりと生徒への支援を行う。また、学校行事や部活動を通じて豊かな人格形成を行う。</p>	<p>(1) 生活指導</p> <p>(2) 危機管理と情報公開</p> <p>(3) 学校行事や部活動</p> <p>(4) 課題を抱えている生徒への支援</p>	<p>ア. 基本的な生活習慣と規律ある態度を養う指導を行い、集団生活における社会性を身につけさせる。</p> <p>イ. 重点を置いた指導として、生徒指導部が中心となり、挨拶運動・シェアシート運動を実施する。</p> <p>ア. 教職員は生徒の安全が何よりも大切であるという認識を持ち、危機管理マニュアルを作成し、安全・安心な学校をめざす。</p> <p>イ. 学校ホームページの公開掲示板等で可能な範囲の教育活動や情報の公開を行う。</p> <p>ア. 社会性や協調性の育成のため、クラブ活動を奨励する。</p> <p>イ. 情操面を豊かに育てるため、宿泊研修、校外学習、耐寒オリエンテーリングなど多彩な行事を充実させる。</p> <p>ア. 生徒が抱えている問題に対して、きめ細かい相談・指導を行う。</p> <p>イ. 問題解決の部署として ICP（臨床心理研究所）の存在の明確化をするとともに、相談しやすい環境づくりに努める。</p>	<p>ア. 教員による、規則を守らせる指導・挨拶・礼儀を重んじる目標は 4.5 以上(平成 27 年度 4.5)であったが、生徒・保護者による教員の規則を守らせる指導 (平成 27 年度 生徒 4.2 保護者 4.0) 差 0.5 を縮めることを目標とする。</p> <p>イ. (平成 27 年度 生徒 3.5 保護者 3.6) と評価が低い。 生徒会を中心に積極的に挨拶運動を行い、学校月間目標により、さらに啓発を行う。</p> <p>ア. 安心・安全な学校を目指すには、危機管理マニュアルの整備(平成 27 年度 4.0)及び、緊急時の警察、消防との連携・訓練等の学校安全対策は(平成 27 年度 4.0) 4.5 以上の目標が必要である。</p> <p>イ. 情報公開については、保護者の満足度が低く、(平成 27 年度 生徒 4.0 保護者 3.9) 4.2 以上を目指す。</p> <p>ア. 説明会やガイダンスなどで、クラブ活動の参加を奨励する。(平成 27 年度 生徒 4.2 保護者 4.1)</p> <p>イ. 多彩な行事の中で、協調性を持ちながら主体的に行動できる生徒を育てる。(平成 27 年度 生徒 4.3 保護者 4.4)</p> <p>ア. 日頃、担任は日直面談等きめ細かい相談・支援を行なっていると思われる。(平成 27 年度 4.3)</p> <p>イ. 生徒の個人面談等の満足度は低い。(平成 27 年度 生徒 3.8) 両方とも 4.2 以上を目標とする。</p>	<p>ア. 教員・生徒・保護者とも 4.0 以上の高評価である。保護者の評価が 0.1 ポイント上昇した。指導については現状を維持する。(○)</p> <p>イ. 昨年より生徒・保護者の評価が 0.2~0.3 ポイント上がったが、モラルに関わる大事な指導であるので、より啓発を行う。(△)</p> <p>ア. 安全・安心な学校を目指すため、訓練等の学校安全対策を実施しているにも関わらず、評価は低い。何が不足しているか再考し実施できるよう努力する。(○)</p> <p>イ. 学校ホームページでの教育活動や情報の公開を行ったが生徒・保護者の評価は高くなかった。今後、フェイスブックなど工夫して情報公開を行う。(△)</p> <p>ア. クラブ活動については毎年高評価であり、これを維持する。(◎)</p> <p>イ. 行事についても毎年高評価である。来年もこれを維持する。(◎)</p> <p>ア. 担任は日直面談等きめ細かい相談・支援を行なっている。自己評価も昨年と同ポイントで高評価なので、これを維持する。(○)</p> <p>イ. 個人面談や ICP などは 生徒・保護者からは相談しやすい環境ではないらしい。環境改善に取り組む。(△)</p>
<p>4</p> <p>保護者・同窓会・後援会の連携と社会貢献</p>	<p>保護者・同窓会・後援会との連携をすすめるとともに、地域の社会活動に協力する。</p>	<p>ア. 保護者と協力し P T A 活動を活発にするとともに、保護者・同窓会・後援会との連携し、文化祭・体育会などの活動を支援する。</p> <p>イ. 復興支援やボランティア活動等で地域に協力する。</p>	<p>ア. 保護者から見る P T A 活動は(平成 27 年度 保護者 3.8) 目標値レベルである</p> <p>イ. 生徒から見る生徒会活動は(平成 27 年度 生徒 4.1) と初めて目標値 4.0 を超えた。</p>	<p>ア. 本校の P T A 活動は協力的で活発である。来年度もこれを維持する。(○)</p> <p>イ. 老人ホームの慰問や震災復興支援など生徒会を中心に続けて活動している成果があらわれ評価が高くなってきた。来年度もこれを維持する。(○)</p>